

川西市男女共同参画センター

兵庫県川西市

市民と行政がパートナーシップを結ぶことで活動がさらにパワーアップ!

川西市の男女共同参画センターは、生活支援型複合施設「パレットかわにし」の中にあります。2年前にオープンした新しい施設ということもあって、会議室や相談室のほか、プレイルーム(一時保育室)、フリースペース、情報コーナーなど設備も充実。ガラス張りの館内は明るく開放感にあふれています。センターでは各種講座や生活相談など、さまざまな活動を行っています。なかでも注目したいのが平成13年度から毎年続けられている「保育サポーター養成講座」。実践的な保育だけでなく、子育て支援を通じて男女共同参画についても学べるとあって人気が高く、毎年30名近くの参加者があるそうです。

「センターを利用する人のために、お子さんを預かるための一時保育のグループを独自に作りたかったのが講座発足のきっかけ。講座修了生が中心になって“保育ボランティアグループ”も生まれ、実際に活動していただいているんですよ」(男女共同参画センター主査・高橋さん)

さらに男女共同参画プランの推進体制として5つの重点部会を設置し、そのひとつの一時保育推進部会で関係機関と共催で講座を実施しています。平成16年度からは、保育ボランティアグループ、ファミリー・サポートセンター協会の登録、社会福祉協議会ボランティア活動センターへの人材登録、公民館既存グループでの活動など、講座修了後に各人の都合にあわせた活動する場(受け皿)を、選択肢として講座受講前に紹介するなど、アフターフォローも行っていく予定だといいます。

育児・DV・福祉などを実際に経験した市民が男女共同参画推進委員会に参加

もう一つ、このセンターの特徴としては「男女共同参画推進委員会」という組織を作っている点が挙げられます。これは市民

から15名の委員(任期2年)を募って、男女共同参画社会の実現を目指して市民と行政と一緒に取り組んでいこうというもの。「講座企画グループ」「調査研究グループ」「情報発信・ホームページグループ」の3つのセクションに分かれ、精力的に活動を行っています。

委員の顔触れは、長年福祉の現場に携わってきた人、DVに悩んだ経験を持つ人、育児のために仕事を断念した経験を持つ人などさまざまですが、それぞれに男女共同参画に関して興味を抱き、この活動に参加するようになったといいます。

「女性フォーラムやセンターの講座を聴講しているうちに“自分らしく生きるってことはどういうことなんだろう?”と思うようになって、推進委員に応募してみたんです。活動を続ける中で、今まで当たり前だと思っていたことが、当たり前じゃなかったということに気づかされたり、社会を見る目が変わったり。学ぶべきことは本当に多いです。秋には市制50周年を記念して弁護士住田裕子さんの講演会等の啓発事業を企画しているんです」(推進委員リーダー・森さん)

市民と行政がパートナーシップを結んだことは大成功

新聞を編集したり、他市の男女共同参画都市宣言や条例の調査をしたり、独自の講座を企画したり、市議会を傍聴したりと、忙しく飛び回っている推進委員の皆さん、そして年3回の情報紙「ぱれっと」を発行する編集委員の皆さん。そんな姿に、男女共同参画センター主査の高橋さんはこう語ります。

「活動の活性化を図るという意味において、市民と行政がパートナーシップを結んだことは成功でした。今では、私たち職員側のほうが、市民の皆さんに“一緒にがんばりましょう!”と、背中を押されているような感じなんです(笑)。今後も市民の皆さんと協力しあいながら、さらなる男女共同参画社会の実現に向けて、精一杯努力していきたいと思えます」



ガラス張りで開放的な雰囲気男女共同参画センター。1階にはお茶を飲みながらくつろげるフリースペースや一時保育用のプレイルーム、情報コーナーなどがある。市民活動センターが併設されているため、性別を問わず、さまざまな年齢層の利用者が訪れている



市民に期待する主査の高橋裕美子さん。センターは職員2名のほか、嘱託スタッフ5名で運営されている



市民公募の男女共同参画推進委員の皆さん。左から鎌田満子さん(講座企画担当)、森まりさん(リーダー)、新田紀久子さん(情報発信担当)、岡崎万里子さん(調査研究担当)。月に一度の定例会のほか、それぞれグループごとに精力的な活動を行っている

●施設概要

生活支援型複合施設「パレットかわにし」の中に市民活動センター、パートサテライトなどと併設。館内には相談室、情報・図書コーナー、会議室のほか、プレイルーム(一時保育室)、フリースペース、印刷コーナーなどがある。

●事業例

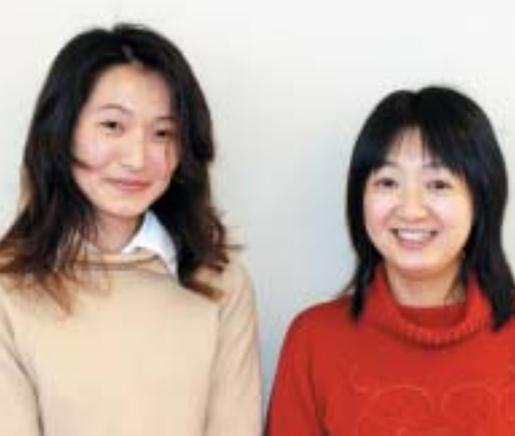
保育サポーター養成講座、再就職支援講座、NPO起業講座など、各種の講座を開催しているほか、情報紙「ぱれっと」の発行、女性のための相談(夫婦関係など)も行っている。

●住所&交通アクセス

兵庫県川西市小花1丁目8-1
パレットかわにし
阪急電鉄宝塚線川西能勢口駅より200m、またはJR川西池田駅より500m。

●問い合わせ

電話 072-759-1856



保育サポーター養成講座修了生が 一時保育のボランティアグループを結成

保育ボランティアさんりんしゃ代表 京本三香 さん
コーディネーター 鈴木澄江 さん 兵庫県川西市

保育ボランティアさんりんしゃを 設立するまで

平成13年、川西市女性センター
(現：男女共同参画センター)が
主催する「保育サポーター養成講座」に参加。

講座修了後、8人の有志が中心となって
保育ボランティアの立ち上げを思いつく。

他の保育ボランティアを見学したり、
実際に運営している団体を
参考に運営方法を考える。

保育ボランティアさんりんしゃを設立し、
男女共同参画センターの「プレイルーム」で
講座開催時の一時保育を始める。

平成14年度からの
保育サポーター養成講座の
講師を務める。

最初は自分の育児の 参考になればと、講座に参加

「さんりんしゃ」は、川西市女性センター(現：男女共同参画センター)が主催する、「保育サポーター養成講座」の修了生によって平成13年に結成された保育ボランティアグループです。センターの講座開催時に、参加者の子どもを保育するのが主な仕事で、館内に設置された「プレイルーム」が一時保育スペースとして使われています。ちなみに、お二人とも現在、子育ての最中だといいますが、なぜ保育サポーター養成講座を受講することになったのでしょうか。

「最初はサポーターとして活動したいというよりも、自分自身の子育ての勉強になればいいかなあという程度の軽い気持ちで受講したんです」(鈴木さん)。「私の場合まだまだ手のかかる小さい子どもがいるので、すぐにサポーターを始めるのは無理だけど、いつか何らかの形で保育の仕事にかかわれたら、という気持ちでしたね」(京本さん)

お二人とも最初は気軽な動機で講座に参加したようですが、講座修了時にセンターや仲間からの強い勧めもあって、さんりんしゃ設立に加わることになったといいます。

保育ボランティアの 必要性を感じていた

「他の一時保育グループを見学に出かけて、“果たして私たちにできるのかな”と一抹の不安はありました。でも、“悩んでいるよりは、とりあえずは動いてみれば”というアドバイスを受けて、スタートしたんです」(京本さん・鈴木さん)

謙遜するお二人ですが、かねてから、身をもって保育サポートの必要性は強く感じていたようです。

「私たちも講座を受けるときは、自分の子どもを保育ボランティアに預かってもらっていたんですが、育児から解放されて自分の時間を持つことで、気持ちのリフレッシュにもなりました。こういう場がもっとあれば子育て中のお母さんの息抜きにもなるし、そのお手伝いを少

しでもできたら・・・と思ったんです。それに保育サポートは自分の子どもの面倒を見ながらやれるから、他の仕事とは違い、子育て中でも入りやすかったってことも大きかったです」(鈴木さん)

もっとスタッフを 増やして次なる展開を

現在さんりんしゃの登録スタッフは総勢9人。センターから利用者の人数と日時の連絡をうけて、スケジュールのあう人がサポーターとして参加するというスタイルをとっています。スタッフ間の連携はうまくいっているようですが、唯一の悩みはスタッフの人数不足。

「子供が3人ならサポーターは2人、5人なら3人派遣とおおよそ決めています、なかには元気が良すぎる子どももいて(笑)。急遽メンバーを追加したり、あわててしまうこともあります。こちらとしても単に子供をあずかるだけでなく、楽しくかつ安心に時間を過ごしてもらいたいですからね。そのためにはもっとメンバーを増やしたいです」(鈴木さん)

「うちのサポートの特徴として、当日急に行けなくなる人のことを考えて、必要人数プラス1人のピンチヒッターを必ず用意しているんです。その方がスタッフも気軽に登録できるし、お子さんをあずける方にとっても安心ですからね。それを考えると9人じゃまだまだ足りない状況。ゆくゆくはセンターの講座時以外の保育にも手を広げたいと思っているし、今年のサポーター養成講座の修了生の中からも、活動に協力してくれる人がたくさん現れるといいんですけどね」(京本さん)

平成14年度から保育サポーター養成講座には、「さんりんしゃ」も講師として参加し、後に続く人の育成に力を入れている。

保育者1人につき、市から千円の謝礼が支払われるとはいえ、交通費や通信費を考えるとほぼ無償ボランティア。それでもお二人がイキイキと輝いているのは、社会とのつながりを持ち、地域の役に立っているという意識あってこそ。小さな子どもがいても社会参加は充分可能だということを、彼女たちが身をもって証明しているように思えます。



「パレットかわにし」の1階にある「プレイルーム」。ここで一時保育を行っている。まだすべての保育をこなすには至っていないようだが、将来的には人数を増やして、充実を図るのが理想とか